



講座I 理想の教育・職場をめざして



講座III 熱く語ろう!ホンネで話そう!私たちの想い!!

兵教組青年部サマーセミナーは、青年部で実行委員会を組織し、すべてのプログラムを青年部自身がつくりあげていく一大イベントだ。第1回実行委員会では、それぞれの職場や仕事に対する想いを出し合うことか



井上 拓路 青年部長

青年部サマーセミナー

7月28日から30日までの3日間、南但馬自然学校で兵教組青年部サマーセミナーが開催され、県内の青年2005人が参加した。

らはじめた。青年部では、「ゆとりをもって教材研究ができていない」「同僚とゆとり話する時間がない」などの声をよく聞く。また、近年「今の仕事・学校を辞めたい」「この仕事で自分に向いていないのではないか」と考える不安の声が多くなる。このような時だからこそ、人と人とのつながりを大切にしたい。「青年部サマーセミナー」を充実した活動にしたいと考えている。

講座Iでは、兵教組の先輩方を招き、「理想の教育・職場をめざして」私たちのとりにてきた組合活動の紹介や、「理想の職場」や、「組合活動の意義」や、「働きやすい職場づくり」のために私たちができていること、「青年部に求められること」などを話し、つなごうと、深く議論ができたのだと思う。



講座II フロンティアにて

兵教組は、過去のとりくみの中でさまざまな成果や権利を獲得してきた。ただ、教育改革運動の中心となってきた。私たちは、自分自身の生活を確立し、日々の教育実践にとりくめて

が何よりの収穫だった。講座IIでは、体験活動を通して教育的力量を高める学習活動と交流活動をおこなった。教職員自身が自然体験や福祉体験、社会体験をする中で、「人と人とのふれあい」「子どもたちを中心とした体験学習」の大切さ、「協力・協働」の重要性を改めて実感することができたことは本当に貴重な経験となった。

最終日の講座IIIは、「熱く語ろう!ホンネで話そう!私たちの想い!!」と題して、学習をすすめた。「理想の職場」や「組合活動」などについて話し合い、各自が職場に帰った時、私たちがどのようにならなければならないかを考える機会になった。3日間をともに過ごした、つなごうと、深く議論ができたのだと思う。

兵教組は、過去のとりくみの中でさまざまな成果や権利を獲得してきた。ただ、教育改革運動の中心となってきた。私たちは、自分自身の生活を確立し、日々の教育実践にとりくめて

兵庫の教育現場で働く仲間が集まるからこそできること、見えてくるものがある。また、集まることで、普段の生活で忘れがちなことを思い出させてくれたり、再認識させてくれたりする。

つながることの大切さを伝え広げてほしい

兵庫の教育現場で働く仲間が集まるからこそできること、見えてくるものがある。また、集まることで、普段の生活で忘れがちなことを思い出させてくれたり、再認識させてくれたりする。

兵庫の教育現場で働く仲間が集まるからこそできること、見えてくるものがある。また、集まることで、普段の生活で忘れがちなことを思い出させてくれたり、再認識させてくれたりする。

兵庫の教育現場で働く仲間が集まるからこそできること、見えてくるものがある。また、集まることで、普段の生活で忘れがちなことを思い出させてくれたり、再認識させてくれたりする。

2012 人事院勧告

8月8日、人事院は政府と国会に対して国家公務員給与について勧告した。国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律(給与改定・臨時特例法)(2月成立)に基づき、給与減額支給措置が実施されている異例の状況

の下で、減額前の給与との較差を算出し、併せて減額後の較差も算出された。民間給与との較差は、月例給は(減額前)△27.3円△0.07%、(減額後)28610円7.67%。ボーナスは、公務員の給与(現行3.95月)は、民間の支給割合(3.94月)と均衡している。

果、月例給、ボーナスともに改定なし。一方、50歳台後半層の給与水準の上昇を抑制するため、昇給・昇格制度を見直し、55歳を超える職員は、標準の勤務成績では昇給停止(給与法改正)、高位の号俸から昇格した場合の俸給月額の増加額が縮減(人事院規則改正)となった。

では、県財政悪化を理由とした賃金カットが5年目に入り、一時金の据え置きともあいまって、職員の痛みは限界を超えている。職員は置かれた厳しい状況を踏まえ、比較企業規模を100人以上に復元することと併せて、賃金水準確保に向けた勧告を求め、①独自の給与削減措置を中止する勧告②減額措置後の給与に基づき、比較企業を基本③50歳台後半層の給与について、県に追従することなく削減措置をおこなわず現給保障は維持④雇用と年金の確

実な接続のための定年延長について、賃金水準を低下させることのないよう十分に検討し対応⑤臨時職員の労働条件の改善に向けて努力する、などの実現にむける最大限の努力を払われるように強く要求していく。

最終日の講座IIIは、「熱く語ろう!ホンネで話そう!私たちの想い!!」と題して、学習をすすめた。「理想の職場」や「組合活動」などについて話し合い、各自が職場に帰った時、私たちがどのようにならなければならないかを考える機会になった。3日間をともに過ごした、つなごうと、深く議論ができたのだと思う。

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
 兵庫県教職員組合
 発行人 兵庫県教職員組合 代表者 泉 雄一郎
 編集人 池田 啓子
 電話 050(3538)2346
 1部7円 年定価280円
 (組合員の購読料は組合費の中に含む)

2012/9・1
 No. 1820
 2面

第39回教育課程編成講座
 前期講演(要旨)
 「これからの人権教育のすすめ方」
 くその視座と実践的課題とは
 講師 桂正孝さん

月例給・一時金とともに改定なし

50歳台後半層の給与水準の上昇を抑制するため、昇給・昇格制度を見直し



講座II 感動体験にて

現在、兵庫県の教職員の世代交代期であり、毎年多くの先輩方が退職され、多くの青年教職員が採用されている。この実態をふまえて、これまで先輩方がとりくんでこられた兵教組運動について学ぼうと、青年部の運動方針に「兵教組運動の語り継ぎ」を位置づけている。

ラッセホールのご案内

ご宿泊 研修会や展示会に便利な立地です。

部屋タイプ	面積 (㎡)	客室	1名様	2名様	3名様
シングル	16	4	¥7,000 (¥8,080)	¥10,000 (¥11,500)	-
ツイン	18~19	6	¥8,000 (¥9,240)	¥12,000 (¥13,860)	¥15,000 (¥17,320)
ツイン (バリアフリー)	22	3	¥10,000 (¥11,550)	¥15,000 (¥17,320)	¥18,000 (¥20,790)
和室	6畳	2	¥8,000 (¥9,240)	¥12,000 (¥13,860)	¥15,000 (¥17,320)

チェックイン 15:00~ / チェックアウト 10:00
 アメニティ完備/ネット無料接続 (ADSL) / 全室シャワー付トイレ
 ベビーベッド ¥1,000 (¥1,155)
 立体駐車場 (車高 155cm 以下) チェックインからチェックアウトまで ¥1,000
 全自動麻雀室有 (4時間 ¥5,040)
 () の金額はサービス料 10% 及び料金を加算した金額です。
 ご宿泊、レストラン利用でユニコムカード (ゴールドカード) がご利用いただけます。(10%OFF)
 同時に、兵庫県学校厚生会施設利用補助券がご利用頂けます (ご宿泊のみ)

- 神戸市営地下鉄県庁前駅より徒歩5分
- JR、阪神元町駅より徒歩8分
- JR、阪急、阪神、地下鉄三宮駅より徒歩15分
- 高速花隈駅より徒歩15分
- 山陽新幹線神戸駅より車で5分

お問い合わせ・お申し込み
 〒650-0004 神戸市中央区中山手通 4-10-8 各種ご宴会、会議利用、ご婚礼にもご利用頂けます
 TEL.078-291-1117 FAX.078-291-0333 http://www.lassehall.com



桂正孝さん (宝塚大学・人権教育部会協力研究員)

第39回教育課程編成講座

7月26日・27日に、ラッセホール・神戸市教育会館で第39回教育課程編成講座が開催され、前期(課題別)・後期(教科系)あわせて600人を超える参加者があった。

全体会では、2012「全国学力・学習状況調査」実施状況アンケート結果の報告があった。また、前期「これからの人権教育のすすめ方」その視座と実践的課題とは」と題した桂正孝さん(宝塚大学・人権教育部会協力研究員)による講演(要旨掲載)と、後期「活動に培う確かなわかりやすさ」算数の活動を軸にした授業づくり」と題した岡部恭幸さん(神戸大学・算数・数学教育部会協力研究員)の講演(要旨掲載)があった。

「これからの人権教育のすすめ方」その視座と実践的課題とは

桂正孝さん(宝塚大学・人権教育部会協力研究員)

問題意識とその視座

憲法には、国民個人の幸福追求権(憲法第13条)を基盤に、基本的人権とりわけ社会権としての生存権、教育を受ける権利(学習権)、労働権が入っている。この「学習権」では、市場原理至上主義派は似通った「学習者主権」という用語を使う。「親や子どもが基本であるから学校も選択制に」と主張しているが、こ

学力観

学力政策も学力至上主義(学力身分主義)ではないか。明治の近代化は学歴社会で人材養成をし、教育を通じて社会秩序を教えこんでいった。この日本の教育原理はまだ崩れていない。しかし、国民個人の人権確立のための学力、進路

公共観

公共とは、誰のために、何のためにあるのかをしっかりと考えていかなければならない。また、公共とは憲



第39回教育課程編成講座 法にある「基本的人権」という永久の権利であることを大事にしなければと考える。

子どもたちの居場所づくり(マッピング)を積極的に行い、相互援助・公助の大切さを

人権観

阿部謹也さん(故人・歴史学者)は、私たち日本人は「世間」で生きてきたと言っている。世間とは家と村の間関係の環。厳しい身分制の中で、義理や人情という人間関係重視の情動的な人権観が強く、これを突き詰めれば愛国心になる。しかし、国際的にはインクルーシブ(包摂)という言葉が出てきた。また、この人権論に優るものが人道主義ではないか。人権問題は、この人道主義を基盤にしなければナショナリズムにやられてしまうというのが私の考えであり、大げさに言えば地球市民社会のモラルの問題だ。

国際的な人権条約

グローバルゼーションの今の時代、日本も否応なく、国際的な人権の流れの中に位置づけられることは非常に大事なことだ。国際人権規約(1979年批准)や子どもの権利条約(1994年批准)など、日本政府がどのような国際人権条約を締結しているかもおきたい。

憲法改正

私が興味深く感じているのは、憲法尊重擁護義務(憲法第99条)だ。憲法を尊重する擁護義務の中に国民は入っていない。国民は憲法を変える力を持っているということだ。公務員は擁護義務とされているが、現実には尊重擁護義務が守られていないと思えない。

2 市場原理主義の中で

日本型雇用システムが崩壊し、「弱い個人」は締め出された。常に300万近い失業者数とされるが、若者の失業率は倍と考えられる。その中で、安定した公務員に対するパッシングは厳しい。また、フリーターからホームレス問題へとつながっていく。一度貧困化するとなかなか復活できず、世代的再生産の問題と言われている。語弊があるかも知れないが、貧困文化が一方であるのだ。

3 進む貧困化と格差社会

グローバル化の中で、貧困化が格差化してすすんでいく。パブルの崩壊から自殺者は激増し、14年間、3万人を超えている。未遂はその10倍と言われ、10年続いただけで300万人を超えていることになる。

4 生存権と学習権の形骸化

グローバル化が特に進行した平成不況の時代、憲法的な理屈で言えば、生存権、あるいは教育権(学習権)は形骸化してしまっただけ。日本社会は学歴を基本につくら

5 人権意識の問題

戦前の日本は、社会保障を家・村社会でやってきた。しかし現在、近代家族は一人世帯が1/3を超えているなど崩壊しつつあり、これは個人化にほかならない。いろいろな意味で家族を頼れず、家族すらがリスクというところまで起りえる。このような社会の中で、人

6 基本的人権とは

基本的人権とは、自由による生きる権利、平等による生きる権利、その中には政治に参画する権利や国家に賠償を求め、新しい人権で、プライバシー権や幸福

7 人権教育について

部解放・差別撤廃運動など、これまで部解放運動は悪戦苦闘してきた。その中で、同和行政、同和教育が追求されてきたが、02年の法切により大きな格差が出てきている。

8 実践的展開として

子どもの権利条約を大切に、「エンパワーメント」(アメリカ女性解放運動や黒人運動から出てきた言葉を受け継ぎたい。当然、同和教育で生み出された「学力保障」や「進路保障」もそうだが、残念ながら日本の教育はこれがキーワードになっていない。私たちの力が弱いせいだ。生きていくのに欠かせないものとして、自己実現・相互扶助の場がある。他者にとって自分が必要とされる「社会的居場所」(メンバースhip)と、自分自身確認の「個人的居場所」(アイデンティティ)がある。大城立裕さん(作家)は、アイデンティティを「主体性」と訳している。自分は何者か、自分の立ち位置、課題をつかむことだ。これは、生涯学習につながる。そこで、自分自身に向き合うことで、人生設計ができる。これはキャリア教育だ。私たちは社会的に自立する基礎をつくり、この大変な時代に生きていくべきだ。



追及権などがある。豊かに生きる権利としては、生存権や社会権、労働権があり、憲法の前文には、平和に生きる、平和の生存権などがある。憲法第9条の問題が含まれるが、これらが憲法が認める基本的人権の中身と考えている。

子どもたちの権利を大切に、「エンパワーメント」(アメリカ女性解放運動や黒人運動から出てきた言葉を受け継ぎたい。当然、同和教育で生み出された「学力保障」や「進路保障」もそうだが、残念ながら日本の教育はこれがキーワードになっていない。私たちの力が弱いせいだ。生きていくのに欠かせないものとして、自己実現・相互扶助の場がある。他者にとって自分が必要とされる「社会的居場所」(メンバースhip)と、自分自身確認の「個人的居場所」(アイデンティティ)がある。大城立裕さん(作家)は、アイデンティティを「主体性」と訳している。自分は何者か、自分の立ち位置、課題をつかむことだ。これは、生涯学習につながる。そこで、自分自身に向き合うことで、人生設計ができる。これはキャリア教育だ。私たちは社会的に自立する基礎をつくり、この大変な時代に生きていくべきだ。